

令和4年度

## 松山看護専門学校 学校関係者評価報告書

この学校関係者評価報告書は、松山看護専門学校の令和4年度自己点検・自己評価報告書に対する学校関係者評価委員からの意見を取りまとめたものである。

令和5年8月24日

学校関係者評価委員

委員長 渥見 秀夫

### 1 学校関係者評価の目的

本校全般の運営について、教職員自らが自己点検・自己評価し、それに対して学校関係者から意見を聴き、これを踏まえて学校運営の組織的、継続的な改善に取り組むことを目的とする。

### 2 学校関係者評価の基本方針

本校の自己点検・自己評価活動は、厚生労働省が示す「看護師等養成所自己点検・自己評価指針」に則り、8 カテゴリー・41 下位項目・129 評価項目にわたり、全方位的に原則として3年周期で行う「学校関係者評価」と、当該年度の学校運営目標に対して行う「学校関係者評価」があり、本報告書は後者によるものである。

### 3 学校関係者評価のポイント

- 1) 自己評価結果の内容の適切性
- 2) 自己評価結果を踏まえた今後の改善方策の適切性
- 3) 学校の重点目標や評価項目等の適切性
- 4) 学校運営の改善に向けた実際の取り組みの適切性

### 4 学校関係者評価委員名簿

種 別	氏 名	所 属
関係業界	渥見 秀夫 (委員長)	聖カタリナ学園高等学校前校長
〃	山本 泰士	愛媛県社会福祉協議会常務理事
地域有識者	正岡 いづみ	松山市番町公民館館長
保護者	橋根 勝義	医師
卒業者	高垣 杏紗	看護師

## 【令和3年度の主な改善提案への学校の対応とそれに対する評価】

### 1 改善提案

- 1) 将来構想はすべての面において基礎となる問題であり、早急に方向性を示す必要がある。今後の医療界の状況を把握し、明確な将来構想を策定してもらいたい。
- 2) 将来構想の基礎資料となる卒業生調査については、まずは簡便に、学校主体の郵送方式などで試行してみてもどうか。
- 3) 卒業生の90%以上が県内医療機関等に就職していることは高く評価できる。地元密着型の本校の特徴を踏まえ、様々な場で将来構想を検討してもらいたい。

### 2 令和4年度の学校の取り組み

令和4年度は新カリキュラムの適用開始年度であり、円滑な導入と運用に努めた。なかでも、初めての実習となる1年生の「見てこんけん実習Ⅰ（健康な人々への支援）」については、クリニックと公民館の協力を得て、実習目的・目標の到達ができ、大きな学びを得た。

令和4年12月8日開催の「第3回看護専門学校理事会」（松山市医師会長以下16名出席）において、松山市医師会に設置される「看護専門学校将来構想検討委員会」を活用し、中長期的な学生数の推移等を踏まえた経営全般について、学校理事以外の委員を巻き込んで松山市医師会全体で協議していく方針が打ち出された。

また、令和4年度には、教職員及び在学生双方が捉える本校の強み、弱みを把握するため「学校生活に関するアンケート」を実施し、学校生活や授業等に関する貴重な意見や要望等の把握に努めた。特に、学生アンケートの結果について、各科教務会議や、学科長会議、学校運営委員会等の場において、学校理事、医師会事務局及び教職員等で情報共有を行った。それぞれの場で協議した結果、施設・設備、教材等については、優先順位と緊急度の両面から、女子用洋式トイレの増加等を最優先課題としたほか、学生自治会と連携を図り、学生の意見を尊重しながら、よりよい人的環境、物的環境を整えていくこととした。

また、教員の資質向上の一つとして、全教員が担当科目の授業評価を実施し、教授活動の振り返りと授業改善を図り、成果の向上が見られた。

さらに、教員が作成する校内模試の実施など国家試験合格率の向上に向けた取り組みを強化するとともに、キャリア支援の面から看護職としての進路選択に適切な助言が出来るよう、学生一人ひとりの理解を深め、学生の意向を尊重・確認しながら意思決定の支援を行い、今年度も県内就職率約90%で、地域医療に貢献できた。

## 【総評】

今年度も昨年度に引き続き評価委員が一堂に会し、学校の設備等の現状を視察したうえで、意見を交換することができた。各委員による評価を委員長の責任において集約することとした。

学校の現状から今後の展望に至るまで、自己点検・自己評価により問題点を認識し、対応策まで検討されており、学校管理に関し特に問題となる事項は無く、今後の発展が期待される内容となっている。

令和4年度から開始された新カリキュラムは問題なく運用されており、特に、地域医療等を学ぶ「見てこんけん実習」はユニークな取り組みであり、その成果が次年度・他領域への好波及が期待されるほか、入院期間が短くなっている昨今、退院後の患者環境を考える際に必要な知識になると考えられるので、引き続き充実した内容となるよう努めてもらいたい。

令和4年度の看護師国家試験については、昨年度の反省を活かした諸対策（図書館や学生ラウンジでの個人学習スペースの確保、国試2か月前の校内模試の新規導入等）が功を奏し、全国平均をはるかに上回る合格率を実現したこと、また、既卒者全員が合格したことを高く評価するものである。

新型コロナウイルス感染症により研修や実習が制限されるなか、早期の離職が気になる場所であり、仕事の継続も社会人力だと考えられることから、就職後の状況も把握されたらよいと思われる。

人口減少や地元からの若者流出の問題を十分に勘案しながら円滑に学校を運営することは極めて厳しいと言えるが、ほとんどの項目において目標を達成されていることに対し敬意を表するとともに、今後とも、3年制専門学校の長所をきちんとアピールし、優秀な学生の確保に努めてもらいたい。

## 【学校関係者評価】

- 1) 4年制大学が林立するなかで松山看護専門学校の重要性を増すよう、専門学校の長所をきちんとアピールし、優秀な学生の確保に努めてもらいたい。
- 2) 様々な場面・それぞれの段階での情報収集・情報交換を活発にし、それを集約する過程でグランドプランへの共通理解を目指してもらいたい。
- 3) 学生アンケートで要望のあったホームページの刷新・充実や学生世代が日々視聴するSNSを活用した広報に取り組んでももらいたい。

## 【運営目標別評価意見】

### (目標)

#### I 教育成果の向上

##### 1 国家試験対策の充実を図り、看護師国家試験合格率 100%を目指す。

- 昨年度の反省を活かした諸対策が功を奏して高合格率（特に既卒者全員の合格）を実現できたことは高く評価できる。
- 残念ながら合格率 100%を達成することはできなかったが、全国平均よりはるかに高い合格率であった。校内模試の新規導入や国家試験に関する学生アンケート、自習室の開放時間の延長などが奏効したものと考えられる。
- コロナ禍の制限がある中、ほぼ 100%の目標を達成されており評価できる。今後も、個人学習スペースの新設など学生のニーズや、教員を含むメンタル面のサポートなどに配慮しながら、達成に努めていただきたい。
- 試験合格率 100%には至らなかったものの 42 人中 41 人の合格者という結果は、試験 2 か月前の校内模試とその解説の効果が大きかったのではと推測するとともに、教育方針や授業内容は十分なレベルに達していると考えられる。
- 個人学習スペースを確保し、学習環境を整えることで国家試験対策の充実につながっていると感じた。

### (目標)

#### I 教育成果の向上

##### 2 新カリキュラムを運用する。

- 「見てこんけん実習 I」の成果の次年度・他領域への好波及が期待される。
- 昨年度から開始となった新カリキュラムは問題なく運用されているようである。単位数が 109 単位に増えているので学生の負担にならないような配慮も必要と思われる。「見てこんけん実習」はユニークであり、ますます充実した内容になることを望む。
- 見てこんけん実習など、新規の取組に向けた強力な取り組みは道半ばであるが、残された課題をクリアすれば一層の業績向上につながるものと期待している。
- 新カリキュラム「見てこんけん実習」については、外部協力組織・団体との一層の協体制の構築が、今後ますますの充実につながるものと考えられる。
- 「見てこんけん実習」で地域医療を学ぶためには周囲の協力が必要であり、説明や調整が大変な分野ではあるが、入院期間が短くなっているため退院後の患者環境を考える際に必要な知識になると思うので今後も継続してほしい。

(目標)

I 教育成果の向上

3 学生支援の充実を図り、卒業率 90%以上を維持する。

- 現下の社会状況・学習環境での卒業率 95.5%達成は、学校挙げての努力の賜物と高く評価できる。
- 卒業率は 95%で目標を達成できている。学年ミーティングや学生カウンセリングは今後も継続して欲しい。
- 目標をクリアしており、今後もきめ細かな学生のケアを通じて、成果を継続されることを期待している。
- 今回、卒業率 95.5%で 90%という目標を達成できたことは、その取り組みについて十分か効果があったものと思う。今後も学生と教員・学校の十分なコミュニケーションづくりの継続と、教員同士の情報共有を大切しくすることが大切だと思う。
- 卒業率が昨年度は 95%に上昇しており、学生の情報共有を行い、支援を行った結果だと思う。ぜひ継続してほしい。

(目標)

I 教育成果の向上

4 社会人基礎力を育成する。

- カリキュラムでの可視化を図りつつ、校内外の日常生活態度にも目を配りたい。
- 100%希望施設に就職もできていることから、在学中の指導が行き届いているものと思われる。コロナ禍で研修や実習が制限される中、1年以内の離職率が気になる。仕事の継続も社会人力だと思うので、就職後の状況も把握されると良いと思う。
- 学生の時期から社会人基礎力を育成する視点を持ってカリキュラムを編成することは重要であると考えており、今後も自己チェックや PDCA サイクルなどにより確実に成果を向上されることを望んでいる。
- アルバイト等による学生のインフォーマルな活動によっても社会人基礎力は、育成されるものであるが、やはり看護師として必要な社会人基礎力の育成は、学校主導によるものが大きいと思う。そして、社会人基礎力の育成については、就職施設からも好評であるというアンケート結果に心強く思った。

**(目標)**

**I 教育成果の向上**

**5 教員の資質向上を図る。**

- プリセプター制をはじめ、研修機会を公私にわたってできるだけ多く設けるとよい。
- 授業評価がタイムリーになされ、有効活用できているようである。今後も継続し、レベルアップにつなげて欲しい。研修への参加も可能な限り行って欲しい。
- 教員の資質は研修会や学会参加以外にも、日頃の授業での生徒とのやり取りや、それ以外のコミュニケーションなど身近な機会にもチャンスがあることも認識され、向上に努められたい。
- 研修会・学会・フィールドワーク等への参加により、日々進化する医学に対応できる専門的知識の習得や、医療界を取り巻く環境変化を熟知していくことができれば、教員の資質が向上し、その成果が授業に反映されることに期待する。
- 教員数は充足しており、授業評価を活用して授業改善に活かすことができているため、今後も継続してほしい。

**(目標)**

**II 学校運営の安定**

**1 質・量ともに安定した学生確保に努める。(受験倍率3倍)**

- ホームページに学生の意見を反映させるなど、専門学校ならではの「動き」を発信する工夫を凝らしたい。
- 看護大学が林立する中、優秀な学生の確保は重要な課題である。推薦入学枠を増加させたことが良い方向に向かうよう、今後も学校への説明会を続けて欲しい。また、ホームページの刷新・充実もぜひ行って欲しい。
- 競争の激化により、社会人経験者などにもターゲットを確保するなど確保に向けた具体策が講じられている。今後は、学生アンケートで意見のあったホームページの他、学生世代が日々視聴する SNS を活用した広報に努めるなどにも取り組んでいただきたい。
- 市内の看護学校の設置状況を考えると、オープンスクールによる学生への施設・設備・カリキュラムの充実度のアピールと、具体的な国家試験合格率・就職率・卒業率の数字が、学生確保に大きく影響するものと思う。

(目標)

Ⅱ 学校運営の安定

2 学びやすい、働きやすい職場環境をつくる。

- 有給取得率を一つの目標にして、お互いの心身の健康を気遣い合える職場環境を維持して行ってほしい。
- 最低限の年休は取得できているようであるが、もう少し全員が取得できるよう業務改善が必要と思われる。マニュアルの改訂は今後も継続し、働き方改革を成し遂げて欲しい。
- 年間予定の可視化は、複数の教員が情報共有するうえで、重要な取組みである。また、学生からの相談等には従来通りきめ細かく対応するとともに、引き続きアンケートを実施するなど改革の要否を定期的にウォッチしてほしい。
- 働き改革に準じる以上の教員の待遇向上が最も効果的なものと思うが、学校経営の視点も鑑みながら考えなければならない問題なので、十分な検討と慎重な判断が必要であるとする。
- 教員の休暇取得や学生が学びやすい環境づくりのためには連携が必要になるため、業務マニュアルの活用や学生の情報共有を今後も継続してほしい。

(目標)

Ⅲ 看護学校将来構想

1 第1看護学科の今後の在り方について検討する。

- さまざまな場面・それぞれの段階での情報収集・情報交換を活発にし、それを集約する過程でグランドプランへの共通理解を目指したい。
- 将来構想についてはまだまだ不十分なようである。4年制看護大学が林立する中、3年制専門学校の立ち位置をはっきりさせ、優秀な看護師育成に努めることは、学校にとっての責務であると思われる。さらなる検討が必要である。
- 全国や愛媛県の人口動態の最新動向を踏まえながら、中長期的に検討を進めることが望ましいと考える。
- 十分な対応がされていると思うが、更なる試行錯誤により一層の充実を目指していくことが重要であるとする。
- 学生が考える学校の強みを活かし、社会の動向や教育理念に基づいて今後の方針について検討してほしい。